

論説

2021-10-20

昨日公示された衆議院では「分配」が議場争点に上っている。背景には、格差に上る不公平感の広がりがあろう。各党は格差是正を公約の柱に掲げるが、実現への道筋をより分かりやすく示す必要がある。

21衆院選

菅義偉首相が「すくすく」成長戦略の目的は、大規模金融緩和と財政支出、成長戦略により経済の好循環を創出し国民の暮らしを豊かにすることだ。確かな株価上昇によって一部企業の財務状況は好転し、金融資産を持つ富裕層も潤った。だが企業側は増えた利益を内部留保としてため込み、資金の上昇が国民全体に行き渡るメカニズムは確立しなかった。

有権者の不満に呼応するため、各政党は分配策に上る格差是正を打ち出すにせざるを得ない。格差を是正する具体的な道筋を明らかにする必要がある。また同じ分配でも政権を争う自民党と立憲民主党の公約は方法論が異なる。

自民は企業の競争力を強めてその恩恵を労働者に及ぼす路線だ。具体策として賃上げに積極的な企業への優遇税制を打ち出すが、これは経営者側を優先するわけが明白なわけではない。制度を確立するならば中身を具体的に説明する必要があるだろう。

企業が内部留保を増やす理由は新たな成長への道筋が見つかっても投資に踏み切れないからだ。企業側の成長を優先するならば、投資意欲を喚起する具体的なメニューもそろえて提示してほしい。立憲は日本の道徳を育てた中間層を底抜くことで格差が拡大したと分析。法人税への累進税率の導入や富裕層を対象にした金融所得課税の強化を掲げる。

ただ大企業も富裕層は税制対策に賛げ、柔軟性を見込めるのか不透明感が残る。格差を是正するには政府力が必須だが、規制力のある道徳を打ち出さなければ格差の是正は進められないのではないか。公明党や共産党なども格差の是正はより追加の増税措置が必要との見解を示している。昨年の参議院選挙時に掲げた「消費税増税の凍結」は実現しなかった。格差是正の道筋も明確な効果のある案を提示してほしい。

分配と格差是正

実現への道筋を訴えて

所得再分配は公平な社会のための切り口だ。だが説明が足りず有権者の「格差是正」への期待に応えられなかった。政府は「格差是正」を掲げ、具体的な道筋を示さなければならない。